



桂花香處叢書

乙未十月廿

栗香山房



二 号

早稲田大学図書館

文書 27

D 40

1



乙未 明治二十年

粟香齋桂花香處 乙未正月 獲州

豐浦宮 長門國

二之宮 祭仲哀帝處

仲哀帝神 卯皇后 市史婦

熊襲征伐 山出陣之史り

クタラ クマシラト 三韓と細事

尊國法親王

伏見天皇弟六皇子 永仁三年生
延文元年九月寂 五十九歳

秋八月十日 今泉陣ノ事 於テ大調練此ヨリ先

キ米沢大共水城西北家屋浸水安政六年未ノ歳

り 誠ニ千歳ノ時

●熊藏十六歳嘉永六年癸丑四月中旬頃梁沢

森崎へ柴伐りに行ク

●福山侯阿部伊勢守正弘天保十四年老中

命せ元安政四年六月廿七日卒ス言子年三十九

●景物に即シ

いとしく心ぢりまもわきも子

あはれと云い塔のち

ちくばり愛いたまき世とよ海とじの

あふきことあと思ひけりな

●今尚ほ風已卯新年の歌よ

●老うな民の煙るゝ新玉の

年一はつせうらうちあすむらん

●何とあはれいさあふれ

し年まらりふれ心りけり

●大塊載我以形勢我以生俟我以老

息我以死身 ツネ子

●著我館 葉科松伯 所起教道

●古謝先生 高津兵三郎 號

●直雨堂 神保蘭室 塾

●志 東 波 地 天 流 石 流 千 鳥

文明十年教政隱東山
時山名宗全細川
勝元死東西軍引還
二十二年當

傳風抱濟世志孰非櫻契流鳴呼
今何時洪水溢九州始將舟楫利濟
川汝勉矣

●太田錦城文政末没之 龜田鴨齋市川
未庵天保安政吹手在世

東條理合甚ハ西河岸に住ス 松崎恒堂ハ
澁谷羽澤、隱君子比皆經學、名々

●前漢書地理志曰樂浪海中有倭人分為
百餘國 倭說文順也 魚官宣公名倭

●下總回鴻臺城文明十年曰井城攻時

是利成氏殺上杉憲忠走古河亨德元年十九歲
太田道灌三十一歲 文明十八年太田道灌卒年五十五歲

●文明十年上杉顯定
拔古河上杉成氏年
八年居古河十年
明徳六年成氏死六
十四歲
●西上杉作長亨元年
始上杉正二年西上杉
和上杉二十年河
西上杉戰川越永正
元年
●永正三年北條早雲
振成西上杉漸衰
十六年早雲死
●享祿三年康運越
後上杉謙信生
●天文九年氏康五
破上杉憲政
十年北條氏綱死
五歲
●土身徳川家養生

太田道灌築所取リ牛也上杉顯定拔古河
成氏出奔後文明十年成氏と顯定和

●天文年中、小弓御所、北條氏綱ノ戦、アツテ
御所討死シ玉ウ 天明六年氏綱陷小弓御所是利義明討死

●永祿六年上杉謙信曰井城ヲ攻ム

●永祿七年北條氏康里見ト戦フ

●元亀元年氏康卒 五十六歲
●天正六年里見義弘卒氏康ト後ハ
九年
●天正十八年小田原七滅ス 氏政 秀吉率大軍討之

前出師表中置先帝、祿十三後出師表中置先帝六

●南朝之志臣萬里小路藤房卿、洛シ脱シ伊豆、
國熱海加茂郡久木、西山、退隱シ名ヲ授翁ト改メ

其後西京花園妙心寺二世、大禪寺トナレシト、一説
リ熱海隱道、地方ハ今ニ温泉寺ナリ持佛念

珠法衣、類當時、見ルヘキ、什物今尚存セリ
寺ハ大松ノ御、手植ノ松ナリ又川前、清録

リ湧出ツ皆是當時ノ遺愛ナリ
今年明治十二年
己卯三月ハ御カ五百年相當トハ三月二十六

日ヨリ四月九日ニ温泉寺、於テ大法會執行リ
大道寺師、鎌倉圓覺寺ノ山中教正其他尾
濃、遠駿相武、高則三十八名ト法筵列
セリ

●引舟通リ吉野園、花宮ノ浦、麻布邊、旗
本松平當公羽ト申ス人致仕後杜若、造リ

出クシ百年、過キサルヨシ吉野園主ノ話ナリ
●得意謀成失意時 乙未三月廿六日收函

●浪人儒者井上文平號金我、住日本橋、
松可此人實曆明和安永天明、頃在江戸次

細井平洲有豪傑亦才之名一時諸侯多
贈幣貨常浴人曰人各有癖余性頗憎為人
後、行亦出於先哲叢談 口上

●太閤秀吉征伐薩摩和成之後秀吉より長刀、
丹より自身向ケテ新納武藏より賜ハリ曰ク武藏よ
ハ我ニ向ヒニ心ナキヤハ武藏谷ヘテ曰ク主人義久
引ラ引クトキハ直ニ引ニテ秀吉曰ク義久殿ハ
病代ノ為臣ヲ所持トヤレシヤ薩長ノラレタリ 細川
齋上六郎頭ヲクニテ言リシトハ心何カヤ 新納
キ下句ヲ言テホリ下ニ鈴虫ヲ啼ク新納晚年

ノ詠ナリテ あぢきばやと詠こゝまで七返也
一と柳言ひするハ、しつゝしつゝ

富山十部十若米美の事お死を新納の歌
明のまて誰の手枕よおせしけん

●進のまよわら黒髪友 口上

●戊午の歳吉井幸輔高師より深川早苗
の史書より留頼之孫なる梅田源之助と云
ふ在り星雲教一頁を賦し吉井の賜

昌平日久事陵夷外患内憂不易賢忠
定妻編坡花葉君能讀此有餘師

此頃吉田全權公使清成米國、新創出帆
之即我寫真贈 克蘭德高統寫真之
表而、以此書

謹呈克蘭德公閣下、延達館別未清
夢寐忘聊寄此寫真以代拜晤

明治十二年二月是帝國宮內省出仕兵位
官島誠一郎

絳帖

鳳鳴堂

大觀帖

敬雪館

後大久保利通壬午五月十四日、以テ清水谷、覽
後大久保利通壬午五月十四日、以テ清水谷、覽

月、終ル、八回總、半載餘、三テ西雄共、七可謂

人生之禍福不可量、唯從天道任自然
而已矣、己五月三日書于養浩堂中

清僧云生、降清朝着胡服、死不降于清朝着
明衣冠、滿人不為狀元、漢人不為后妃。

右荒尾精、說果是吾

音羽護國寺內觀音閣聯

妙相尊嚴 千古英靈留海島

神通感應 四時福澤庇人家

歸愚沈德潛敬書

古錢考

長年大寶

仁明天皇

嘉祥元年

饒益神寶

清和天皇

貞觀元年

貞觀永寶

清和天皇

貞觀十二年

寬平大寶

宇多天皇

寬平二年

延喜通寶

醍醐天皇

延喜七年

乾元大寶

村上天皇

天德二年

慶長通寶

後陽成天皇

慶長五年

元和通寶

後水尾天皇

元和年

寬永通寶

明正天皇

寬永十三年

七年十月九日竹添進一郎肥後來

戊辰一別七年振ナ遭遇艱難ヲ詰リ夜

半ニ鯨飲ヲ舊作ヲ教詩ヲ書ニ有テ淚行ハ詩

面ニ白シ

●明治十七年十月二十日於宮中老

余後賴山陽死五年而生天保九年戊戌七月

二十日山陽以天保三年壬辰終五十三歲余後佛

帝那勃列公翁十六年而生那勃列翁以我明和五

年生當西曆千七百六十八年以我文政四年死彼

享年五十四歲西曆千八百五年死於意勤納島

清國大學士曾國藩長于我二十五歲。今年若在
世其年七十二歲。彼以六十歲卒。自明治十年
當我明治十年其生年在嘉慶十八癸酉年
即我文化十年。与我母宇濃夫人同年。可謂
奇母。今歲七十二。余行年四十七。

以上甲申明治十七年

余在九院推選人
置昭 政溫 山吉 盛典 貝里忠利
高崎 山吉 太郎 入 政行 田秀貞
香波 昌邦 田 成德 林 大八
下 親美 千 高 千 坂 益 亨
秋 新 十 郎 田 新 次 郎 新 保 新
門 屋 三 郎 小 川 隆 次 郎 中 保 三 郎

他 在 人
高 崎 五 六 河 井 所 文 本 田 親 隆

堺 堀田長雄 藤原庵 多野部以部

日縣士

吉柳延之介 中野重三郎 七郎 七郎 七郎

他

尾打兼善 栗本敦

明智光秀の家来兩人明智左馬助、齋藤
内藏助、利三之妻、春日局、筑前中納言秀秋、
家集、稻葉正成、故母林氏、書せり成り
浅井長政妻、織田信長ノ妹、浅井ノ嫁ニシテ、
三人、第一女、淀君、秀吉ノ後室トシテ、秀頼、
生、第二女、浅井夫人、徳川二代秀忠ノ妻トシテ、
男子二人、竹園、竹三、代家光、河内國、駿河大納
言、稲葉正成、妻、春日局、竹千代、補翼、第三女
八景極、嫁、浅井夫人、始、木下勝秀、嫁、後、秀忠、嫁

旗本、極官、御側衆より以内より御用御取次、

昇進。○御用御取次、村松出羽守

山本重幸

甲子、坂酒井大光阿部松前老中、次板倉周

防守御役御免、相成、所以浪士具印、出入、

乙丑、家茂將軍大坂親友、節板倉再友採用

相成、松平周防守同職同名、故、冷伊、噴守、政知

なり

小笠原重政守、癸亥、歳生、亦事、作、賞金、壽、新

ヲ以テ、英人、渡、也、事、朝、廷、出、遣、真、呂、テ、御、役、ヲ、免、ラ

レ、且、小、笠、原、京、都、出、立、前、手、家、ヲ、滅、シ、ク、元、為、ノ、失、敗、ヲ

吉井元兵衛尉、建白、將軍親為、後、再、勤

御目附、杉浦誠一郎、梅澤、板倉、周、防、之、御、用、ハ

山形水野和泉守忠精、板倉、不知、水野、小、人、ナリ

十年、西南、ノ、亂、副、島、種、臣、上、海、遊、シ、天、津

李、鴻、章、ト、身、ハ、時、清、客、ト、侍、タ、唱、所、モ、多、ク

亂、平、揚、國、ノ、次、勝、由、舟、割、島、ト、平、一、ク、曰、ク

西、郷、ノ、亂、進、退、尤、カ、亂、ヲ、清、國、知、慮、ス、モ

亦、身、際、ニ、社、分、ナリ、モ、好、本、極、也、礼、清、國、強

弱、ナリ、シ、情、勢、亦、ハ、赫、々、向、心、割、島、何、用

ナリ、清、國、ヲ、弟、リ、シ、バ、力、信、シ、際、天、地、モ、亦

歌をいひし身千上初めては人全待た侍ま
表高極めて身が被下り人かれり下馬
高きふ軍相強き才官と始りし身りし
國りたり可き事一語

黒白留書

羽州月山の女竹を大朝とひて衣内令
漢流りて長女宮の給あり
池上は竹の如き木力ハは竹を朝
まゆふめりて大朝も遊子弱りて
多来り細よりの言
我漢流の月山と女竹を釣朝を
学ばぬ誠の如き言べし
関族國の歌
是れ竹の襟ははらり世の中
風よほふ言あり

お八田知己の歌子

吹く風も靡靡きし〜てめを替ぬ

心や竹の操多らん

元田お字に身あり世年切癩と云ふ
も戒めて曰く癩は長妻の病なり唯以故
一口に百の飲食を節制すべし又

此節飲食 不飲沐浴 流通氣血

唯氣血を流通せしむるは病なり

三原お公の治平年、の歌

己巳秋八月望休ぬ道得寸隙興二三僚友
従僕馳馬遊隅田川途上見と見と見露臥殆
將餓死慟死不忍見行至木母寺邊田
畝秋禾不實之瘠枯殆盡鳴呼者何
心焉輕衣肥馬以為優游為國宰相者
豈可如此乎揚然怙怙以賦國歌一章
隅田は水の心も亦こころごとく

けるは乃る〜し秋乃色花

実乃美

齋定公 上杉謙信 子 恒徳院

御官位 文化五年七月十日 従四位下

曰九年三月五日 侍従

天保三年十二月五日 左少将

考之通に於て定行公治領公由君に左少将に
以て侍従に任じられたる也

奥羽の者、大抵金持が都に出て金とる者
者、智能さしづらぬ而して報酬を
却る金持が狂乱と判識者、其の或

の賜物と成る悔はたのむ

勝揚り、サカサ 候者あり、在る者、其の或

府のやまきり、金とる者あり、廿九日斗者、
檢査

オクトロア 所謂入府税

元語、ゴリシヤ、權、ト言フ義あり

王室、白、入府税、持シ府民ノ願、府ノ費用、取

立、許、

記

一金、三、九、拾、五、鈔

由、山、之、林

右に花弁也

二十七年九月廿日 江戸

けり立花の舟の行隅川洲流新地枝梅新築
俄躍りし一立花舟より日付見ぬ運信も
八月十老船りるこも舟いけり一船流るるを
二千斗の男もさういふアアア東海を渡りし
流の物どもさるる米海を行き行所新地
此男ども身不料むらしの請家ありし
ついに松丸入十州と接す

吉里者著回疆探險記州城ノ地録

波斯國 面積十萬四千六百六十六方里人口九百萬

其面積、我が日本、殆んど十倍に超る

南部、各州、阿刺比亞人種、西部、阿刺比亞及亞爾彌亞、猶太ノ

人種ノ混、西北部、土耳其斯坦、阿富汗斯坦、東部、溫德斯坦

孟買港 印度西部、省府ニシテ、スエズ運河、紅海ヲ通過せん

船船、巴達フヒ岬ヲ轉シ、同時ニ、航線ヲ取

一、線、スコカリ島、從テ、錫蘭、南岬、ニシテ、港、何

孟買、ソラ、軍事貿易上、モ、波斯流、及、阿刺比亞

岸、對シテ、英國政府力、各、啗、ヲ、怒、テ、是、火、長、各、

吐キ出シタル西大巨口ト云フヘシ

象窟 古昔梁羅門徒ノ楫造ナリ

拜火教 古昔波斯宗教今漸衰滅シ現ニ孟買府中四万四千餘人

ヲ存セリ 教徒此ニハ墓所石壇塔等ナリ 日支斷内雨水洗滌任ス

クラチ 印度河ノ海注ノ所四汎ニ有リ其最北ノ一大汎ハ此クラチニ畫出

セリ 英國前年阿チノ戰一大鉄道線ヲ布設ス此等ハ運輸

利益ヲ貿易上ノ收メ目的ニラズ國境ヲ劃ス兵器糧食運

供給ニ北方一大強敵ヲ防遏シ侵略ノ隱謀ヲ杜絶ス力ハ

知名ノ港埠ニテ黃埃慘慘一點ニ青綠ヲ見セ沙漠中ノ一

小市ナリ英人一クニ怒ビ波斯灣口ヲ封鎖ス及チヨリ易シ

波斯灣ノ名ニテラハ港

阿羅波斯

ハ波斯前代國王ノ名ナリ十七世紀

始メ波斯灣内ニ跋扈セル歐洲人ヲ追攘シ葡萄牙及ヒオランダノ實

力ヲ限テ此港ニ押シ詰メリシガ今ニ到リ追國人ヲシテ國權ヲ伸張セシム

英主ノ遺跡ヲ追跡スアハスルガ

吸道向遠得意忘念者

采華望永保怡然此在

至風時欲起遙觀海上

不知探楫者奈此海幾何

石堂是二刀劍鑄鍊法

一南部餉鐵五貫目

從十五到二十圓

造り上り二百三十圓 此炭二百俵

管辰之空屋代價

一金襦半 壹圓

片代後價

● 弘法大師真蹟急就章

明治十三年四月廿日 昔山下門内博物館に弘法大師
真蹟急就章一卷紅紙綴本陳列せしむり此巻物はもと讚岐
國豐田郡萩原村地藏院に所藏ありしが今同村萩
原寺に付寶物に列せしむり 大布に真蹟は世上僅かに有る中モ

此巻殊々筆法精妙にして二王ノ源に遡る意あり卷中
或は飛鳥出林或は龍蛇入草ノ勢態あり書法は曰り
一湏人品高ニ湏師法古三湏紙筆佳といへり
今や此巻ノ料絹ヲ見ると恰モ上好ノ紙ノ如し實に本朝
無二ニたり 戊戌二月三日録七父故運友古張中

○戊辰口占

表信先失信，欺人又自欺。長毛變斷髮，薛岳連虜。
鬚奉勅却矯勅，攘夷遂媚夷。萬國公法好，天佛是紅姬。

二

諸藩徵士巧圍戰，粘着濃枝何莫意。歌吹海中議國事，

豈料形勢湏更變。

指新地

二條出入勢堂，一六閑暇占游場會。

計官成會計，盡內國職定內國。傷素志唯有東山秀，

五百俸金不計富，可憐日誌賣却贏。為領別品買錦繡，

寤惚山人